

事例 1 人工林伐採後の広葉樹植栽等による針広混交林造成 (四国森林管理局)



- 高知県 香美市（かみし）
立割不寒冬山
（たてわりふかんとうやま）
国有林
- 人工林伐採後にヒノキ（中央の緑の濃い部分）と広葉樹を植栽した試験地の様子
（植栽後 11 年経過）

四国森林管理局では、多様な樹種からなる森林への誘導に向け、人工林の伐採後に針葉樹（ヒノキ）と広葉樹の植栽による針広混交林の造成試験を行ってきました。

高知県香美市の立割不寒冬山国有林の試験地（約 8 ha、水源涵養タイプ）において、人工林伐採後にヒノキを植栽する区域と広葉樹を植栽する区域、広葉樹の天然更新※を図る区域を設定しました。

平成 20 年度から植栽等を行い、現在ではヒノキのほかにアラカシ、スダジイ等の広葉樹を植栽した区域と天然更新を図った区域のどちらにおいても順調に成長しており、針広混交林の成林が期待できる状況になっています。

引き続き、生育状況を確認しつつ、必要な保育作業を行い、多様な森林づくりの知見を得ることとしています。